

# 牧場見学(乳牛)

三瓶山のふもとで飼育されている乳牛に、えさやり体験など、直接触れ合うことができます。  
また、生産者から牛乳を出荷するために様々な工夫や努力していることを聞くことができます。



## 活動のねらい

・牧場見学を通して、酪農業に従事している人々の工夫・努力、乳製品が生産地から消費地まで新鮮に運ぶための工夫に気付く。

## 教科との関わり

○ 第5学年・社会科「我が国の農業における食糧生産」

一斉実施可能人数	30人 ※30人を超える場合は、1クラスのときは受入れ可	活動季節・条件	無雪期(4月～11月)
所要時間	約2時間30分	実施場所	福間牧場
主な対象	幼児～		
指導について	交流の家職員による直接指導(職員が牧場見学に帯同します。)		

## 活動の概略

昔から放牧が盛んだった三瓶地域。今の三瓶山の景色は、自然と放牧の歴史によって作られてきました。牧場見学では、交流の家の近くにある福間牧場に行き、エサやりなどの体験を通して乳牛と直接触れ合うことができます。また、牧場主から、牧場の仕事や乳牛の一生などについて話を聞くことができます。福間牧場は、観光牧場ではないため、仕事の邪魔にならないよう、ルールを守って見学する必要があります

## 準備物

### 交流の家が貸し出しできる用具・材料

・無線機 ・バインダー ・携帯用救急バッグ(原則として1団体に1個)

### 利用者や団体が準備する用具・材料

・野外活動にふさわしい服装(長袖、長ズボン、帽子、長靴) ・雨具 水筒

## 交流の家(食堂)で購入できる物

・ブーツカバー※ 長靴でも見学可

※購入物品の金額については、交流の家HPや「利用ガイドブック」をご確認ください。

## 当日までの流れ

- ①交流の家職員からの連絡 牧場主に牧場見学が可能か確認し、団体担当者に連絡します。
- ②確認表・アンケートの送付 確認表、家畜の伝染病防止に関わる事前調査アンケートをHPからダウンロードしていただき、当所までメール(sanbe-suishin@niye.go.jp)やFAX(0854-86-0458)でお送りください。
- ③入所後の打合せ 交流の家にお越しいただいた後、見学の流れ等について確認表をもとに打合せします。

## 当日の動き

- ①打合せ 集合場所や事前指導の開始時間、実施に必要な物品について、入所後に交流の家職員と確認します。
- ②用具の受け取り 事前指導・移動 牧場見学のルールについて交流の家職員が指導します。事前指導後、交流の家職員が牧場まで引率します。ブーツカバーを使うときは、牧場の入口で履きます。
- ③活動(展開) 牧場主・交流の家職員の指示に従い牧場の見学をします。
- ④移動・用具の返却 ブーツカバーを履いているときは、牧場から出たところで脱ぎます。交流の家職員引率のもと、交流の家まで帰ります。帰所後、貸出物品を返却します。

## 安全対策・環境への留意点

- ・牧場見学については、別添「牧場見学のルール」を確認してください。
- ・牧場までは公道を歩いていきます。一列で歩道からはみ出さないようにしてください。
- ・熱中症対策のため、帽子と水分は必ず持参しましょう。

## 備考

- ・トイレは、交流の家グラウンドのトイレを使用してください。
- ・牧場や乳牛の状況によっては、えさやり体験等ができないことがあります。



# 牧場見学のルール

福岡牧場は観光牧場ではありません。お仕事をされていますのでルールを守って見学をしましょう。

## ①見学前に名札やアクセサリーを外しておきます。

牛を傷つけてしまう恐れがあるため、必ず外しておきましょう。

## ②牧場入り口でフーツカバーをつけます。

牧場に病気をもちこまないためにフーツカバーが必要です。

※フーツカバーを使わないときは、長靴を交流の家で履いて見学にいきます。牧場入り口で必ず長靴を消毒しましょう。

## ③牧場では、牧場の方の指示に従い、勝手な行動はしません

勝手な行動をすると大きなけがに繋がります。牧場の方の指示を守りましょう。

## ④牧場では大きな音や声を出しません。

大きな音や声を出すと牛が驚いてしまいます。絶対にやめましょう。

## ⑤牧場では、動物に勝手に触りません。

牧場の方の許可が出てから動物に触りましょう。

